

## 雑 録

**英國鐵鋼業改造計畫と歐洲粗鋼カルテル加入問題**（昭和9年12月20日附在英帝國商務參事官松山晋二郎氏報告）1934年12月5日倫敦で大陸粗鋼カルテル側と英國鐵鋼業代表者の會議が開催されたが、同會議は英國鐵鋼業改造事業の中樞機關たる、鐵鋼聯合會内に新設されたる外國關係委員により招請されたものであるから、會議の主題が英國鐵鋼業の歐洲鋼カルテル加入問題にあつたことは當然であらう、目下英國鐵鋼業改造事業主腦者等は、同事業者を廻る内外兩方面の困難なる問題に逢著して居り、之が打開に苦心して居る模様である、即ち内部的には生産各部門の利害關係複雑なる爲、前記中樞機關への全體的合流實現するの機運と成つて居ないが、政府が這般の鐵鋼保護税の恒久化を容れた際の條件としては、國內改造事業を進捗せしむることにあつたのであるから、其手前としても本事業は荏苒遅延せしめて置くことは許されない事情にある、他方歐洲粗鋼カルテルとの關係は早急に英國同業の參加問題を決定せざれば、英國同業が既に其一員であり近く更新期に迫つて居る軌條、鋼管、造船鋼材等の各國際カルテルは、或は英國側の參加を拒むこととなるやも知れざる危機にも瀕して居る實情である。

由來英國生産者から見た鋼カルテル加入問題は大概斯ふであつた、大陸側が英國生産者の加入を熱望して居るのは、英國鐵鋼業の加盟によりカルテルが一結成として其地位を強化し、一層有名なる存在となるからである、然るに拘らず從來の經過に照らすに英國の對カルテル關係は如何にも從屬的で、イニシアチブは常にカルテル側にありと云ふ實情であつたが、英國が加盟した後と雖此情勢を轉回することは至難と思はれる、短言すれば英國のカルテル内の地位は、飽く迄も第二次的のものを出でないだらうと云ふ見解から、英國側は從來カルテル加入問題に對し割合に冷淡な態度をとつて來たもので、先づ自國の斯業改造事業に一應の目鼻を着け以て自國の地位を強固にした後にカルテル加入問題を考究するも晩からずとの考方が有力であつたものゝやうである、従て大陸側が再三英國側に對し參加を勧誘しても、英國當業者の心境此の如くなる爲商議は常に本筋に入らず今日に至つた次第である。

英國生産者の對カルテル觀は大概次の如くであつた、其處で英國側としては國內生産業に統制を具現して置けば、カルテルとの交渉にも更に有利な地位をとり得るとの説を爲す者が多い譯であるが、或る有力な一部には之よりも更に一步を進めた見方をする者がないではない、之等の人の説に従へば英國生産業が該カルテル内で有力なる地位を獲得し、其所説を重視せられるやうになれば、延ては世界鐵鋼業の安定にも寄與することになるのみならず、英國輸入鐵鋼の統制を行ひ生産状態に安定を與へる事も可能であり、之は直に失業者減少を招來するのであると云ふ、最近英國鐵鋼業代表者が關稅諮問委員に向て増税を申請した際も、鐵鋼従業員約25%今尙失業状態にある事實の指摘し、關稅引上の急務を力説した由であるが、其具體的検討によれば若し大陸半製鋼の輸入を英國産業の實情に照應し、實際に必要とする程度に局限することが出来れば、輸入品に代り需要せられるであらう英國生産の半製鋼の100萬噸毎に鑛石、石炭、骸炭其他の間接的事業に従事する労働者を合せ、就職する労働者は約4萬人に達するであらうと云ふ、此處に注意すべきは英國鐵鋼界が半製鋼の輸入統制を要望して居ることである、各種

の情報並從來の對カルテル方針より推すに改造計畫の首腦者は此點に關し遠大なる意圖を有つて居るやうで、大陸品の輸入は英國再壓延業者中生産組織の能力、性質或は製品仕向地の關係上、どうしても大陸品を材料に使用せねばならぬと云ふ者丈の用に供する程度に、制限し度との主張が行はれて居る、斯く或程度迄半製鋼の輸入を自由ならしむれば、國內生産者中大陸品に材料供給を仰いで來た人々から起る聯合會に對する反對、換言すれば改造事業に對する反對運動を緩和することが出来るし、又一方には大陸生産者殊に白耳義生産者の如く、英國市場を過剰生産品好箇の投賣場として居る方面にも、相當の割當を與へ得る譯であると説かれ、此建前で累次の増税乃至課稅率變更申請の都度、聯合會は關稅諮問委員に對し主張闡明に努めたが、同諮問委員は1934年3月16日以降數次の申請ありたるに拘らず、未だ何等の決定を與へて居ない。

英國鐵鋼業聯合會の要望は、現在の鐵鋼從價税をより高率なる從量税に引直さうと云ふにある、其眞意は之によりて輸入半製鋼を國內生産業の絶對必要とする程度に局限し、而も上記の如き特殊生産國品に或程度の輸入餘地を残し置くことによりて、需給を調整し且國際的競争激化を回避せんとする、英國生産者が白耳義當業者を恐れるのは、同國が輸出市場の競争力を包藏して居るからであるが、海外市場に對する聯合會當局の輸出振興策なるものを見るに、聯合會は上記各種の増税申請が具體化し從量税が設定されるとなれば、或最高割當量——關稅諮問委員が隨時聯合會と協議の上で定めるものに對し戻稅制度を設け、之を聯合會に保留して置いて輸出の助成に費さうと云ふにある、此の如き計畫の實行に當つては、聯合會が輸入品の配給を管制し得る地位に立たねばならぬことは明白であるが、聯合會は實際之を實行せんとする決意を有して居り、關稅諮問委員へ向つても提議して居るものと解せられる、聯合會が輸入品の配給を管制せんとすれば、他方英國再壓延業者の需要する壓延鋼材を經濟的値段を以て供給する手段を講じ、國內製造業の安定を計らねばならぬ義務がある譯で、其には國內生産費と海外市場の仕上製品の市價とを照合して違算なきを期せねばなるまい。

此は從來聯合會首腦者の懷抱する意向で、同時に之が斯業改造計畫と不可分の關係にあることも自明の理であらう、併し英國内には聯合會が此の如き野心満々たる大規模強力の計畫を夢想するのは、他面で重大なる危局に英國當業者を驅つて臨ましめつゝあるとの觀測を爲す者もなきに非ずで、之等の説に依れば白耳義鐵鋼業の將來を卜するに當つて、白耳義貨の動向を等閑に付せんとするは最不可解とする所であつて、白耳義貨の再切下は現下の國際經濟實情殊に白耳義産業疲弊の事實に顧み、決して杞憂とのみ目せらるべきでなく、若し一度白耳義貨が再切下の運命に遭遇せんか、同國の鐵鋼業が之によりて甚大なる刺戟を受くるのであらう事は思想に難くない、即ち斯る際英國では高率關稅及び割當制度によりて、白耳義生産品の市場を大に喪失する事態に陥らば、白耳義は自國の壓延鋼材を再壓延加工し得る生産組織では缺くる所なき國であるから、必らずや海外市場へ進出を志し而も英國生産者が到底競争に堪え得ざる値段を以て、販路を侵蝕するに至るは當然である、此場合には英國生産家が關稅障壁の低下乃至割當制度の緩和と云ふ方面に對策を求めれば、或は破局を收拾するかも知れぬが、恐らく事態は斯様な方

向とは反對に進行し却て復又増税運動の再燃となり、之が實現せんか英國生産費の騰貴となるは必定で、之が原因結果となつて益々海外市場の地盤喪失を激化し、最後には輸出全滅の状態に迄追込まれるかも知れぬ重大なる危険ありと云ふのが此論者の見解であり憂慮でもある。

この如き複雑なる關係の間に立つ關稅諮問委員の責任の重大なることは云ふ迄もない、同委員が鐵鋼聯合會數次の申請に對し、先づ斯業改造事業の進捗を見てからの慎重なる態度を採り、一方大陸鋼カルテルとの關係をも考慮し英國當事者が、英國内市場の割當、海外市場での英國品の享受すべき割當等との點で、カルテル側と隔意なき協議を行つた上で、前途に對し確乎たる見通しの出來た時始めて、聯合會の提案を考慮せんとの方針の下に英國首腦者の善處を促がして來たのであるが、上述の如く大陸側の態度も最近は硬化し來て居るし、殊にベルギー再切下の危険が包藏せらるゝ今日、カルテルとの協調問題を此上に遷延することは大なる禍根を將來に残すものではないかとの説が有力となり、偕そそ冒頭記載の如き會議が招請せらるゝに至つたものと解せられる、英國側首腦者は環境の變化に伴ひ漸次大陸側カルテルとの協調を重視する心構となつて來たが、残る問題は英國側が國內市場を何の程度迄大陸品に開放するかにある、一説には英國側は 70 萬噸を提議せるに對し大陸側は 120 萬噸獲得を目標として折衝し、其間相當の開きがある兩者の意見一致迄には前途尙幾多の曲折を経るものと觀測せられる。(海外經濟事情 10 年 3 號)

**獨逸の亞鉛鍍金鐵板及薄鋼板製造工業狀況** (昭和 9 年 12 月 15 日附在獨帝國商務書記官長井亞歷山氏報告) 沿革 薄鐵板工業は近年に至るも尙他の鐵工業に於て見るが如き大なる發達を遂ぐることは能はざる次第なり、鐵片を薄く壓延す作業は相當の手續を要し、從て價格も當み一般の需要品となるは困難なり、ロールを用ひて製造するに至りたるは 18 世紀に至りて英國に於て始めて行はれたるが、其製品は今日の如き薄き品に非ずして厚きものなり、現在の如き薄ものを得る迄には尙數十年の經過を要したり、然し乍ら今世に知られ居る事實はこの如き最原始のロール装置と雖、原理に於て今日の如きロール装置と全然同一なることとなり、而して今日改善を見たる點は單に所屬の部分、ローラー臺、加熱爐及加温爐に過ぎず、去れば鐵工業中他の部門には近世科學の進歩と共に根本的の改良發達を遂げたるにも拘らず、此部門は原理に於て手工業其儘にて製品の良否と能率とは、一に職工の技術の巧拙と其場合の個人的狀況に左右せらるゝものなり、更に薄鐵板工業の發達を妨げたる事情は職工問題にして、之が爲薄鐵板製造場は冶金場とは場所を距て建てる必要ありたることとなり、且製造技術に屬する事項は互に知り合ふことなく、僅の改良を施すも嚴秘に附せられたる故、本工業の發達を甚だしく害し、現在の如き時代遅の狀態を見るに至れり、尙薄鐵板工業の發達にとりて不利なりし事情は、需要増加に惠まれた年數は極はめて短く、之が爲同業者の薄利なりしことを考慮せざる可らず、而して將來と雖大發達を望むべき工業部門には非ざるべし。

原料 前世紀の 80 年代に於て本工業の原料としては、鍊鐵は漸次顧られざるに至れり、鍊鐵に代りたるものは先づ第一に英國のベセマー鐵なり、而して此は程なく各種の用途に適するトーマス鐵に代れり、トーマス鐵は亦 S・M と稱せられ、又 Flusseisen と稱せられたり。米國も薄鐵板中白鐵力の一部分はベセマー鐵にて製造せられたり。

トーマス鐵を延して製造せる鐵力は錫、亞鉛又は鉛を引くに基だ

適當なり、又トーマス鐵の薄板は薄く延す作業上には有利なるは重ねて壓延するに當り粘著する性なく、從て製品は表面平滑なるが爲なり。

薄鐵板の性質は原料により種々異なるが、大體次の如く類別することを得。

- (1) 軟鐵。(餘り強靱なるを要せざる場所に使用するもの)
- (2) 軟鐵。(曲又は捺を付する場所に使用するもの)
- (3) 特別軟鐵。(型にて打ち、又は皺を付する場所に使用するもの)
- (4) 特別軟且靱なる鐵。(型にて打ち、又は張き伸す場所に使用するもの)

成分 化學的成分に分類するは極はめて困難なるが、最上級の薄鐵板としては 0.08% C 迄、Mn は 0.45% 以下 0.35% 迄、P 及 S は 0.035% 以下ならざる可らず、而して並品としては P 及 S は 0.06% 迄許し、Mn は 0.5% 迄、C は 0.12% 迄有するものとす。トーマス鐵より製造したる薄鐵板に對しては P 0.06%、其他の成分は普通と見積り置くを可とすべし、特に薄き製品を得るには少量の Si を含ましむ、斯くして重ねて壓延するに當り粘著せず、從て表面は平滑となる、高級品に特有なる製品の微妙なる差異は、ロールによる壓延作業及加熱の手加減により現はれ來たれるものなり。

原料買入 薄鐵板の製造工程は一般に半製品たる平延板、即ち幅 200 乃至 300 mm、長さ略々幅に等しく、厚さ 8 乃至 25 mm の鐵板より出發す、平延板を買入るゝに當ては、表面の完全に清淨なること、且熱による汚れたる表面及ローラに起因する壓したる跡も有せざることを條件とせざる可らず、要するに平延板の表面が仕上製品の表面となるものなることを心得ざる可らず、更に平延板の 1 枚宛の重量も亦嚴密に一定し居り、重量の差は後に至りて製品の厚さの差及重量の差となり、製品を不定のものとするに至る、如何となれば壓延作業中に絶えず製造工程中にある板の厚さを一々測り、厚さの差に應じて夫々延ばし、廣げるとは事實上極はめて困難なればなり、故に平延板の輕重は其儘製品の輕重不定となりて現る。

種類 如何なる用途に如何なる製品を使用すべきやに關しては、製品を次の如く分類することを得。

- (1) 通常のトーマス鐵(又 S・M 鐵)製市販鐵力、之は壓延を行ひたる後開放爐にて加熱せられたるもの(溝による等特別加熱を行ふこともあり)
- (2) トーマス鐵製且函入加熱市販鐵力、之は壓延の後密閉せる函に入れ加熱したるものにして、加熱は約 760°C とし、加熱を終りたる後は徐々に冷却せしむる、此製品の用途は主として亞鉛を引き及鉛を引き又曲捺を付する加工品の場合に用ゆ。
- (3) トーマス鐵函入加熱黑鐵力、之は第 2 項に掲げたるものと加工工程は同一なるも、只化學的成分の正しき點に重きを置きたるものなり、從て諸種の物理的抵抗に對してよく堪へ得る、其主なる用途は瑛瑯器物及皺ある器物に在り、此種類に至りて始めて高級品の部類に屬す。

需要量 鐵の需要量を以て其國の文明尺度なりとせば、鐵の中鐵力の需要量を以て測定するは最正鵠を得たるものなる可し、鐵力は社會の隅々に至る迄押入る鐵物に外ならない、鐵を多量に使用する國々の鐵力使用量を一瞥すれば次の如し。

	1913年	1926年	(單位1箇年 1人當使用kg)
▲獨逸 厚 5 mm 以下のもの 白 鐵 力 計	14.8 10.8 1.9 27.5	6.6 9.4 1.4 17.4	
▲佛 蘭 西 薄 物	16.4	21.0	(1924年)
▲白耳義及盧森堡 薄 物	28.1	28.8	(1925年)
▲英 吉 利 薄 物	23.2	36.1	(1925年)
▲北米合衆國 厚、中、薄 白 鐵 力 計	57.8 9.8 67.6	91.1 14.3 105.4	(1925年) (同) (同)

此に示すが如く獨逸は1913年以來の需要は減退せり、歐洲諸國に比して需要量に於て劣るのみならず、米國に比すれば僅に 1/2 に過ぎざるに至れり、米國の1人當需要量が歐洲に比し斯の如く増加し居る理由に就ては二の顯著なる事情によるものなり。即ち一面に於て米國には大規模の罐詰工業が存在し、又他面に自動車工業が極度に發達し、車體は木材を用ふることなく悉く厚薄の鐵板を以て製造せられつゝあり、而もこの二理由のみにては米國の大需要を説明し得ない、茲に於て獨逸の實情を見るに、農業は小規模なるを以て、罐詰を製造して自らの需要に供する量は米國に比し極めて僅少にして、又自動車工業も比較にならず、且今此自動車用の鐵板及罐詰製造用の白鐵力を別勘定とし、尙外國へ輸出するものを除くも米國の1箇年間の需要は、300萬噸即ち獨逸1箇年間需要の約5倍に達す、一人當にすれば約2倍半に相當す、此は各種の工業に薄鐵板が他の材料の代用品として販路を開拓したるが爲にして獨逸に於て未だ此事の無きは一に宣傳の足らざるが爲とせらる。

組合及宣傳 茲に於て獨逸當局者は大に顧る處あり、少數のものを除きて薄物製造工場全部協力して宣傳委員會なるものを組織し、通常の新開及工業的専門雜誌に多くの記事を掲載し、又廣告をもなし、以て他の材料の代用品として薄鐵物の使用の途及び其有利なる點に就て絶えず宣傳をなすことに決せり。

黒及白鐵力の加工業者は目下殆ど全部黒白鐵力加工業總聯盟の會員となれり。但し組合員は會員と分業により團體的に加入し居るものあり、總聯盟に加入し居る工場の職工数は約8萬人なり。

總聯盟は獨逸工業總聯盟會の一員にして、各分業團體中の11のBが即ち此鐵力加工工業なり、獨逸工業總聯盟の重要會議には必らず參與し、又會員の貿易方面の利益を擁護する目的を以て國際商業會議所獨逸部に加入せり。

製産費を高め、且製品の賣行を悪化せしむる一切の障害は、斷固として之を除去せんとする立場より鐵力市場の管理を痛切に感じつつあり。以上は黒白鐵力加工工業には直接の利害關係あればなり、即ち鐵加工工業中でも鐵力加工工業は殊に原料購入費に製産品の價格の大部分を含むが爲なり、而して鐵力原料市場の變動は鐵力加工業者を危険に陥れることあるは、加工品の賣價中には70%に達する原料購入費用を含むが爲なり、故に原料鐵力の變動が加工業者を苦しめる程度は、他の工業部門例へば原料に20%乃至30%を支拂ふ加工業者の想像し得ざる處なり、原料鐵力の市場を調節する主要動力を擧ぐれば、獨逸では關稅による保護にして政府と鐵力製造當業者との間には緊密なる關係に在り。

白鐵力の獨占事業 白鐵力製造關係を見るに、獨逸國內に5製造工場あり。但し其一工場はザール地方に存在す、この中3工場は一

事業即ち在ゲツセルドルフ Vereinigte Stahewerke A. g. に合同せられ居れり、又黒鐵力製造方面を見るに之亦5工場ありて、内4工場は在ケルン Otto Wolff の一(事業に合同せられたり、殘一工場(在ベルナート Capito & Klein)は獨立し居りて、折角進歩せる統制を完全に實施し得ざる事情の下に在り、白鐵力に關しては殘一工場の産額は僅少にして、且市價調節には他工場と協力し居るを以て、獨逸國內白鐵力市場及生産は先づ獨占事業と見做すことを得べし、黒鐵力の生産及販賣は白鐵力の如く統制上の進歩を遂げ居らざるも、獨立せる個人は絶えず其數を減じ、之に反し組合及聯合による事業は勢力を漸次擴大しつゝあり、又厚板市場は既に充分なる統一機關が成立し居る爲、中物及薄鐵板方面でも統制を行はんとする機運に向ひつゝあり。

特殊の工業では原料供給側の値上が事業に悪影響を及ぼすことこの事實は、鐵生産業者側にも遂に認めらるゝに至り、之が爲1925年粗鋼聯盟及鐵加工業聯盟間の協定となり、爾後少くとも輸出品の加工製造に對しては延板は世界共通の値段にて引渡す義務あることとなれり、この協定が鐵力加工業者に福音を齎したるは、世界市價及獨逸の高き市價とを比較して知るを得べし、尙この協定の結果は輸出品加工業者が几帳面に値段の修正の恩恵を被ること能はず、殊に外國に比して法外に高き國內一般の物價騰貴は事實上の値引を實現せしむるを困難ならしめたり、然し乍ら加工業者は兎に角此協定の存在により保護關稅並獨占事業關係を圓滑ならしめたるのみならず、輸出の全減を免れ得たる次第なり、加ふるに加工業者の輸出は勿論鐵生産業者が輸出を行ふ事に歸著するものなりと云ふ認識と、又他方獨逸鐵生産業者は世界周知の事情の下に延板の直接輸出量を制限せりと雖、斯は寧ろ制限を餘儀なくせしめられたる事實と相俟て、兩當業者間に値段を協定するに當り大いに参考となれり。

組合及合理化運動 白鐵力及黒鐵力組合總聯盟は生産實費を低下せしむる目的を以て、獨逸産業合理化運動には多大の注意を拂ふに至れり、産業合理化を獨逸式に解釋すれば、労働の科學的組織及原料及製品の規格を統一する事並生産行程の單純化と云ふにあり、生産行程の單純化とは物品の移動運搬、製品の賣却方法等を改善する事なり、而して合理化運動の實行方法は大体三方面に分たる、即ち(1)原料半製品及完製品の品質乃至形狀を單純化し、種別の數を成可く少くし、以て購入取換及修繕等を容易にする目的の規格統一(Normung)、(2)に進んで半製品及完製品の種別は見易い經濟上の理由より成可く減少せしめ、出來得れば規定せられたるもののみを製造し、之は一見規格統一と同一なるが如きも獨逸では特に Typisierung と唱へられ居れり、(3)次に國家的見地より又個人的利益より見るも有利なる分業化(Spezialisierung)即ち一工場に於て多くの種類の製品をなし、種々の場合に應ずるが如き方針を廢して、今後は統一せられたる規定の下に種別の數を減じたる商品を夫々の工場に割當る事なり。

獨逸の産業合理化運動は又別の二方面より觀察することを得、先づ第一の方面は工場内の合理化にして、其目的とする處は労働者の供給、仕方行程の絶えざる管理により損失を豫防すること、換言せば連續的の仕方行程、人力を機械力により代用することなり、又運搬包裝管理の經濟的仕組等なり、即ち箇々の經營に關する改善にして事業の管理に關係ある職員一切の事務範圍なり、而し此事務範圍も諸種の組合等から助力を受け居る次第なり、如何となれば組合は獨逸國內の合理化運動の一般の進歩に關し、諸外國の此方面に關しての進歩をば絶えず事業管理者に報道して、事業上の管理の進歩改善

に資する爲なり。

合理化運動に他の一面は各専門委員及是等委員會を綜合せる機關による運動にして、箇々の事業家の遂行し得ざる共同の利益を討究す、一例を擧ぐれば鋼類を製造する工場が各々自己の製造全能率を以て製造することを利益とするや否やに關しては、一工場の管理のみにては如何ともなし得ざる問題にして、全工場の協力により始めて實施し得るものなり、且斯かる問題は密接なる關係にある小賣業者側の意見をも徴する必要あり、然らざれば折角の企も失敗に終り、又は豫期せることも反對の結果を齎すこととなるなり、兎に角其工業部門の合理化の爲には、其工業に屬する組合の全部を同運動に同意せしむることは、各分業組合及之を統制する機關の任務なり。

鐵工業總聯盟薄鐵板工場 少數の壓延工場を除きて大部分の薄鐵板製造工場は、鐵工業總聯盟に加入したるが、其加入は次の地方的部隊の下に行はれたり。

- Vereinigte Stahlwerke A. G., Düsseldorf
- August Thyssen-Hütte, Gewerkschaft, Hamborn a/Rh.
- Weiß-und Feinblechwalzwerke, Hüsten i/Westf. und Bruchhausen
- Meggener Walzwerk, Meggen in Westf. und Werk Karlshütte, Langenei
- Abteilung Nachrodt in Westf. (Phoenix)
- Abteilung Hörder Verein, Hörde in Westf.
- Abteilung Weißblechwerk, Wissen a.d. Sieg.
- Abteilung Duisburg (Rheinstahl)
- Abteilung Mülheimer, Stahl-und Walzwerk (Thyssen & Co.)
- Abteilung Niederrheinische Hütte Duisburg (Eisenwerk Kraft).
- Abteilung Witten an der Ruhr, (Gußstahlwerk Witten).
- Abteilung Eichner Walzwerk, Eichen und Attendorf in Westf.,
- Abteilung Eichner Walzwerk, Kreuztal Kreis Siegen
- Abteilung Siegener Eisenindustrie, Weidenau a.d. Sieg.
- Abteilung Sieghütter Eisenwerk, Siegen.
- Ax, Schleifenbaum u. Matter, Siegen.
- Mitteldeutsche Stahlwerke A. G.:
- Abteilung Weber, Brandenburg a.d. Havel,
- Stahl-und Walzwerk Hennigsdorf A.G., Hennigsdorf b/Berlin.
- Hoesch-Gruppe:
- in Interessengemeinschaft mit der Wolf, Netter & Jacobi-Gruppe.
- Abteilung Dortmund der Eisen-und Stahlwerk, Hoesch-A. G.
- Abteilung Ruedenberg'sche Eisenwerke G. m. b. H., Oipe i. Westf.,
- Abteilung Eicken & Co., Stahlwerk in Westf.
- Baroper Walzwerk, Barop in Westf.
- Wolf, Netter & Jacobi, Finnentrop in Westf.,
- Wolf, Netter & Jacobi, Hausach in Baden.
- Langscheder Walzwerk, Langschede, A. G.
- Christinenhütte, Chriatinen b/Meggen (Lenne).
- Mannesmann-Gruppe:
- Mannesmann-Röhrenwerke, Ableitung Grillo-Funke, Gelsenkirchen-Schalke.
- Storch & Schöneberg A. G., für Bergbau und Hüttenbetrieb.
- Abteilung Bremer Hütte, Geisweid Kreis Siegen.
- Otto Wolff-Gruppe:
- Rasselsteiner Eisenwerks-Gesellschaft A. G., Rasselstein bei Neuwied.

- Bonzel & Co. G. m. b. H., Weidenau a.d. Sieg.
- Justus Stahlschmiedt'sche Werk G. m. b. H., Kreuztal Kreis Siegen.
- Walzwerk Steinseifer G. m. b. H., Eiserfeld/Sieg.
- Heggenor Walzwerk, Heggen.
- Krupp-Gruppe:
- Friedrich Krupp A. G., Abteilung Essen-Ruhr, Gußstahlfabrik.
- Capito & Klein A. G., Feinblechwalzwerk, Benrath a/Rhein.
- Lothringen-Henschel:-Gruppe:
- Henschel & Sohn G. m. b. H., Abteilung Henrichshütte, Hattingen a. d. Ruhr, Eisen-und Hüttenwerke A. G., Bochum.
- Gutehoffnungshütte-Gruppe:
- Gutehoffnungshütte, Aktienverein für Bergbau und Hüttenbetrieb,
- Oberhausen im Rheinland, Abteilung Altenhunden, Altenhunden, in Westf.
- Klößner-Gruppe
- Klößner Gruppe A. G. Abteilung Hasper Eisen und Stahlwerk, Haspe in Westf.
- Thyssen-Gruppe:
- Bergbau-und Hütten A. G.,
- Friedrichshütte, Herdorf Abteilung Carlastein, Weibach (Sieg).
- Geiweider Eisenwerk A. G., Geisweid/Kreis Siegen:
- Krefelder Stahlwerk A. G., Krefeld (zusammen mit Klößner).
- Röchling-Maximilianshütte-Gruppe:
- Eisenwerks-Gesellschaft Maximilianshütte, Abteilung Köngi Albert-Werk, Zwickau i/Sa.
- dito, Abteilung Haidhof (Oberpfalz).
- Aquila-Adler-Gruppe:
- Eisenhüttenwerk Thale A. G., Thale a/Harz.
- Becke:-Stahl-Gruppe:
- Stahlwerk Becker A. G. Abteilung Reinholdhütte, Krefeld-Rheinhafen.
- Borsig-Gruppe:
- Borsig-Werk A. G., Borsigwerk OS.
- Die deutschen Weißblech erzeugenden Werke:

  1. Vereinigte Stahlwerke A. G., Düsseldorf, Abteilung Nachrodt (Phoenix), Abteilung Wissen (van der Zypen), Abteilung Hüsten (Gelsenkirnkirchen),
  2. Rasselsteiner Eisenwerks-gesellschaft A. G., Rasselstein b/Neuwied (Otto-Wolf-Rohde-Gruppe).
  3. Capito & Klein A. G., Benrath a/Rhein (Krupp-Konzern).
  4. Aktiengesellschaft der Dillinger Hüttenwerke, Dillingen/Saar.

白鐵力の輸出入

1932 半以後白鐵力の輸出入國別次の如し。

	1932 年		1933 年		1934 年 自1月至10月	
	100kg	馬克 1,000	100kg	馬克 1,000	100kg	馬克 1,000
輸入	169,439	4,900	197,417	5,949	179,423	5,736
ザール地方	123,736	3,606	127,884	4,086	142,037	—
白耳義	—	—	534	9	—	—
佛蘭西	2,059	49	3,810	104	3,767	—
英吉利	39,835	1,085	59,363	1,521	29,322	—
致須國	3,153	144	3,512	153	3,127	—
瑞典	—	—	2,028	67	—	—

輸出	817,593	18,547	1,284,910	29,242	1,178,079	24,860
白耳義	39,319	848	60,956	1,394	85,139	
勃牙利	6,934	158	11,736	287	16,861	
丁抹	16,773	378	14,141	307	32,964	
ダンツヒ	208	5	1,032	24	2,651	
波蘭	2,709	63	3,587	84	1,126	
エストニア	841	19	2,186	52	—	
芬蘭	4,002	97	5,568	139	9,047	
伊太利	20,435	451	53,372	1,220	75,156	
ユーゴスラヴィア	16,740	419	21,435	496	13,891	
ラトヴィア	2,854	69	3,455	88	1,161	
和蘭	145,821	3,206	255,951	5,771	179,761	
諾威	20,658	466	49,001	1,117	41,353	
埃地牙	8,263	211	12,762	324	11,582	
埃地牙	16,015	379	6,984	160	600	
羅馬尼	38,152	844	42,665	978	50,852	
瑞典	50,094	1,098	74,022	1,688	65,159	
西班牙	21,502	496	28,919	668	61,966	
蘇聯	39,821	1,298	37,559	1,286	—	
日本	228,897	4,964	274,654	6,002	224,786	
蘭領印度	891	23	3,221	72	—	
亞爾然丁	51,299	1,145	104,848	2,246	39,363	
伯刺西爾	46,342	999	72,621	1,550	76,536	
烏爾圭	—	—	2,626	57	—	
希臘	2,755	61	7,403	163	2,998	
埃及	918	23	3,969	89	810	
英領印度	537	13	15,969	366	9,722	
瑞西	18,078	414	44,504	1,026	83,947	
馬來半島	1,000	22	4,450	98	19,331	
支那	485	12	9,362	217	24,811	
土耳其	1,387	30	7,150	165	4,515	
其他亞細亞	4,354	97	6,235	140	—	
哥倫比	623	20	—	—	—	
墨西哥	7,112	174	35,646	822	21,367	
南阿聯邦	—	—	1,900	48	—	
パレスチナ	—	—	925	23	—	
智利	—	—	725	15	—	

(海外經濟事情 10 年 3 號)

**西阿弗利加白領公果殖民地產銅事情** (昭和 9 年 11 月 12 日 附在自帝國特命全權大使有田八郎氏報告) 銅の產地 銅の產地はカタンガ州の南部に集中し、約 1,500 Km<sup>2</sup> の地域を占む、同地方は東部及西部の產地に分る、現に採掘中の鑛區は東部及中部にして其數 7、即ち東部產地には Prince-Léopold, Ruashi, Lukuni の 3 鑛區、中部產地には Kambove, Likasshi, Chituru の 4 鑛區あり、西部產地は未だ採掘せられず、採掘はプーランス、レオポルド鑛區以外は、1930 年 1 月探査の結果、銅鑛の埋藏量 7,500 萬噸、鑛石の含銅量平均 7.05%、即ち銅產出力約 500 萬噸と推定せられたり。

銅の産額 銅の産額は 1911 年約 1,000 噸なりしが年々増加し 1929 年の好況時には含銅岩石採掘高 450 萬噸、銅産額 13 萬噸に上りたり。1931 年以後世界銅市場不況の爲、生産過剩となりストツクの激増を見たる爲、1932 年初頭、主要銅産國間に生産制限に關する協定成り、ユニオン・ミネエールは 1932 年中の産額を約 4 萬噸に制限する旨約したり。

其結果 1932 年の産額は 5 萬 4,000 噸、1933 年は 6 萬 5,000 噸、即ち好況時に比し約半減したるが、本年度は國際生産制限協定廢止の結果産額は漸次増加し、年末迄には約 10 萬噸に達する見込なりと稱せらる。1911 年以後の銅産額次の如し。(單位噸)

年度	銅産額	年度	銅産額
1911	998	1916	22,000
1912	2,500	1917	27,500
1913	7,500	1918	20,000
1914	10,000	1919	23,000
1915	14,000	1920	19,000

年度	銅産額	年度	銅産額
1921	30,500	1928	112,500
1922	43,500	1929	130,000
1923	58,500	1930	144,000
1924	86,000	1931	120,000
1925	90,000	1932	54,000
1926	80,000	1933	65,000
1927	89,000		

銅の製鍊 銅鑛は現地にて製鍊せられ、粗銅として他に輸出せらる製鍊所は東部產地附近の Lumbashi 中部產地附近の Panda 及 Chichuru に在り。

Lumbashi 製鍊所は、含銅量 15% 以上の銅鑛の製鍊を行ふ Waterjacket 式熔鑛爐 8 基を有し、各熔鑛爐の粗銅(含銅量 97 乃至 98%) 生産力は 1 日 30 乃至 40 噸。

Panda 製鍊所は、含銅量 6 乃至 10% の銅鑛を取扱ひ、先づ concentration の工作を爲し、含銅量 30% のものと爲し、次に反射爐に依て製鍊す、反射爐 4 基を有し、各反射爐の粗銅生産力は 1 日 70 噸なり。

Lumbashi 及 Panda 製鍊所産粗銅は、大體白耳義及米國に送られ更に精鍊せらる。

Chichuru 製鍊所は、精銅を産し直接市場に供給せらる。生産力月 2,500 噸。

白耳義に輸送せらるゝ粗銅は、凡べて La Société Général Métallurgique de Hoboken の Hoboken 工場に送られ、更にオーレンの電氣製鍊所にて精鍊し、精銅(含銅量 99.98% Electro と稱せらるゝもの)として市場に供給せられ、其品質は北米産のものに匹敵する趣なり。オーレン工場の精銅生産力は年 10 萬乃至 12 萬噸なり、米國に輸出せらるゝ粗銅は、同國にて精鍊の後歐洲市場に供給せらる、1927 年オーレン工場建設前は電氣銅精製用粗銅は、凡べて米國の精鍊工場に送られたり。

銅の輸出 公果産銅 (Cuivre en lingots) の輸出高は次の通り。

年次	數量(噸)	年次	數量(噸)
1930	146,750	1933	94,200
1931	124,000	1934	11,200
1932	59,600	(1月以降 3 月末迄)	

輸出先は米國及歐洲を主とす、1933 年の輸出高國別次の如し。

輸出先	數量(噸)	金額(1,000法)
獨逸	7,501	13,069
アングラ	28,322	20,042
白耳義	32,699	36,186
モザンビク	25,475	32,312
南阿聯邦	293	529
計	94,190	102,139

白耳義國內の銅消費高は年平均 2 萬 5,000 噸なり。

運輸經路 次の諸項の通り。

(イ) 自領公果の西岸海港 Matadi に出づるもの Bas-Congo 鐵道 Kasai, Léopoldville を經て Matadi に到る。

(ロ) 南阿聯邦ケープタウンに出づるもの、鐵道に依る。

(ハ) 阿弗利加東岸 Dar-es-Salaam に出づるもの コンゴ河を北上し、タンガニーカ湖を經て、鐵路 Dar-es-Salaam に到る。

(ニ) 阿弗利加西岸蘭領アングラの Lobit-Bay に出づるもの、鐵道に依る。

世界の銅産額 参考のため最近年次の世界の銅産額を示せば次の通り。(單位 1,000 噸)

國名	1931年	1932年	1933年
世界産額	1,323	870	902
米國	468	228	210
阿弗利加 (内、白領公果)	151	127	165
南米	120	54	65
加奈陀	267	126	120
日本	130	112	125
日	76	70	70

(海外經濟事情 10 年 2 號)

**世界石油生産消費狀況 (1933-34 年) (昭和 9 年 12 月 11 日附在ニューオルレアンス帝國領事代理佐藤由己報告)**

1934 年石油及石油關係燃料の世界生産及消費總額豫想は、次の通りにして總産額は少く共 1929 年の最高記録に匹敵すべく、天然瓦斯、ベンゾール其他の關係燃料を加へたる統計は、1934 年は最高記録を示すものと豫想せらる、各國別に就て見るに世界總産額の 62% を産する米國は、前年に比し 1.25% を増加せるに過ぎざるが、ベネズエラの産額は 1929 年及 1930 年の増産に次ぐ産額にして、茲 12 年間衰退を辿りし墨國は最近 3 箇年間の最大記録を示すべく、古倫比の産額は 1933 年に比し 25% の大増加なり、其他の主要産地何れも平年通の産額迄漕付くる見込なり。

總消費額は 1929 年の最高記録には及ばざるも、1933 年に比較すれば激増にして、最近 4 箇年間の最高記録なるも消費増加量は生産増加量よりも少きが故に、生産過剩額は 1933 年の 8,800 萬バレルよりも多き見込、米國內消費量は 4% 増、佛國 5.25%、加奈陀 8%、英國 10% 弱、獨逸 15% の各増加なり。露國は消費は若干を増したるに過ぎざるに對し、輸出の減退と生産の増加と相俟て貯油量激増せるが、斯は有事の際に備へんが爲の同國の一政策にして、日本でも最近同様の方針を取るに至れり。

近年多數重要工業不振の原因は、例外なく需要の致命的激減に基因するものなるが、石油界は 1934 年は以上の如き消費増加を示せるに拘らず、業界の混亂尙已ざるは石油業者に共存共榮の能力なきによるものとせらる。

因に次表 (1) 總生産額は 1933 年分は實績、1934 年分は豫想額にして、(2) 總消費は生産額、輸出入額等より推定せるものにして、船舶内の油艙にあるものは積取國の消費とせり、又 1934 年分は推定豫想額なり。

**1933 年及 1934 年世界石油生産消費總額比較**

(1)、生産 (單位 1,000 バレル)

國別	1933 年		1934 年豫想	
	石油	天然瓦斯 ベンゾール 其他	石油	天然瓦斯 ベンゾール 其他
米國	898,874	35,083	910,000	36,000
露國	147,077	660	165,000	750
ベネズエラ	120,882	460	136,000	600
羅馬尼亞	50,971	850	58,500	1,000
彼爾斯	49,581	800	52,000	850
蘭領東印度	38,513	1,600	41,800	1,700
墨國	33,905	382	35,200	450
古倫比	13,157	380	16,600	400
亞爾然	13,955	220	14,100	250
祕露	13,925	920	14,000	1,000
トリニダット	9,560	90	10,900	100
印度	8,543	110	8,800	100
イラク	1,200	—	4,000	—
波蘭	3,865	501	3,600	400
薩哈	2,600	—	2,600	—
サラワ	2,288	50	2,000	50
日本	1,935	110	2,000	120
獨逸	1,721	3,159	2,000	3,100

エクトル	1,623	—	1,800	—
埃及	1,591	41	1,450	50
加奈陀	1,147	—	1,350	—
其他	907	3,892	1,600	3,700
合計	1,417,820	49,308	1,485,300	50,620

(2)、消費 (單位 1,000 バレル)

國別	1933 年	1934 年豫想
米國	865,447	900,000
露國	95,500	97,000
英國	66,903	73,500
佛蘭西	37,059	39,000
加奈陀	31,471	34,000
獨逸	23,537	27,000
亞爾然	20,700	21,400
日本	15,190	15,500
墨國	14,885	15,000
羅馬尼亞	13,886	14,500
英領印度	12,660	12,900
伊太利	12,612	13,100
蘭領東印度	10,100	10,300
濠洲	10,000	10,800
彼爾斯	8,855	9,000
蘭領西印度	8,100	8,700
支那	7,745	8,100
利瑞典	7,311	7,700
瑞	6,062	6,200
ベネズエラ	5,900	6,400
西班牙	5,431	5,300
埃及	5,380	5,300
伯國	4,434	4,600
丁抹	4,340	4,500
白耳	4,220	4,300
阿馬	3,589	3,600
南聯邦	3,467	3,600
諸威	3,371	3,450
比律賓	3,351	3,400
致瑞	3,220	3,400
波蘭	3,010	3,140
布哇	2,810	2,800
新西蘭	2,762	2,820
英領馬來	2,592	2,670
トリニダット	2,440	2,300
烏爾圭	2,327	2,480
智利	2,250	2,300
亞爾然	1,984	2,100
巴馬地	1,952	2,150
埃奈馬	1,921	2,100
塊	1,920	2,000
イラク	1,881	2,300
愛蘭土自由國	1,838	1,790
洪牙利	1,408	1,500
希臘	1,388	1,490
希祕露	1,350	1,400
ポルトリコ	1,353	1,380
葡萄牙	1,138	1,150
芬蘭	1,012	1,100
佛領摩盧哥	981	1,000
其他	25,607	26,500
合計	1,378,650	1,438,020

(海外經濟事情 10 年 3 號)

**米國及世界燃料油消費統計 (1930-34 年) (昭和 9 年 12 月 20 日附在ニューオルレアンス帝國領事代理佐藤由己報告)**

1934 年モーターフェーエル (石油より抽出せるガソリン、天然ガソリン及ガソリンに混入して發動機燃料に使用せらるゝベンゾール、アルコホルを含む) 消費高は、新記録を示すものと豫想せらる。

最近 5 箇年間の消費額を、1、合衆國及其他との比較 2、地域別比較 3、地域別 1 人當比較 4、各國別比較々次の通りなるが、中 1934 年分は推算額にして、(1) 表に依り合衆國以外の各國が不況に

拘らず、堅實なる増加をなし居るを知るべく、又(2)表中北米はアラスカ、加奈陀、北米合衆國及墨西哥を含み、南米は中南米諸國、玖馬及西印度を、歐洲は歐洲各國、露國(西伯利を含む)及土耳其を指し、亞細亞は亞細亞各國(西伯利を含まず)、濠洲、新西蘭、布哇及太平洋諸島を、又阿弗利加は阿弗利加大陸、マダカスカル及カナリア群島を含む、(4)表は主要40箇國を示せるものにして、其他とあるは74地方を包含せり、各國共正確なる數字を得ること困難なるに付、概ね輸出入及生産高より推定せり。

(1) 合衆國及其他との比較(單位 1,000 バレル)

年別	合衆國	其他	世界合計
1930	397,591	149,777	547,368
1931	407,843	153,285	561,128
1932	377,791	150,347	528,138
1933	381,561	157,597	539,158
1934	400,000	168,128	568,128

(2) 地域別比較 (單位 1,000 バレル)

年別	北米	歐洲	亞細亞	南米	阿弗利加	世界合計
1930	416,194	90,474	21,895	12,977	5,828	547,368
1931	425,675	95,263	21,900	12,297	5,993	561,128
1932	395,076	95,166	20,844	11,364	5,688	528,138
1933	397,896	101,438	21,685	11,996	6,143	539,158
1934	417,835	109,099	22,300	12,594	6,300	568,128

(3) 地域別1人當比較 (單位 U・S ガロン)

地域別	1人當	地域別	1人當
北米	111.35	阿弗利加	1.70
歐洲	8.52	亞細亞	1.04
南米	6.30		

(4) 各國別比較 (單位 1,000 バレル)

國別	1930年	1931年	1932年	1933年	1934年
米國	397,591	407,843	377,791	381,561	400,000
英國	29,667	28,437	29,836	32,070	33,800
佛蘭西	16,517	19,165	19,571	21,268	23,000
加奈陀	16,940	16,151	15,440	14,435	15,850
獨逸	15,349	14,540	12,789	12,373	15,200
濠洲	6,428	6,095	5,359	5,724	5,820
亞細亞	5,660	5,346	4,835	5,301	5,440
日本	4,131	5,159	5,234	5,650	5,750
露國	3,200	5,400	6,800	8,838	9,040
西太亞	3,435	3,541	2,915	3,001	3,300
伊班	2,967	3,372	3,122	3,032	3,100
和蘭	2,756	3,000	2,891	3,291	3,350
瑞典	2,618	2,785	2,921	2,930	3,070
英領印度	2,437	2,220	2,389	2,085	2,150
白耳	1,933	2,139	2,266	2,589	2,873
丁須	1,942	2,116	1,980	1,840	1,900
新西蘭	1,945	2,301	2,001	1,911	1,890
南阿	1,952	1,792	1,669	1,590	1,680
伯刺	1,867	1,913	1,901	2,149	2,200
蘭東	1,821	1,822	1,790	1,820	1,850
墨西	1,867	1,798	1,687	1,500	1,520
瑞西	1,492	1,527	1,724	1,765	1,840
奧國	1,350	1,560	1,736	1,661	1,730
埃爾	1,224	1,158	840	848	870
愛蘭	1,020	1,060	930	1,138	1,050
布哇	926	1,170	1,110	1,101	1,180
英領馬	890	869	905	908	920
比律	817	622	508	414	450
智馬	646	887	759	891	910
羅尼	765	849	847	895	910
智馬	775	760	706	726	770
波尼	882	809	410	520	560
支馬	810	847	699	504	560
波蘭	827	701	643	780	750
支那	711	715	675	744	750
彼	844	479	474	507	590
斯	611	423	461	673	690

烏	612	766	581	590	660
佛	606	660	626	696	710
領	595	486	442	511	530
摩	7,942	7,845	7,875	8,327	8,915
盧					
哥					
蘭					
其他	7,942	7,845	7,875	8,327	8,915
芬					
其					
合	547,368	561,128	528,138	539,158	568,128
計					

(海外經濟事情 10年3號)

伊國に於ける輸入禁止品目追加 (商工省貿易局 10年2月2日) 伊國は、1月28日官報を以て次記品目の輸入禁止品目追加に關する1月18日附省令を公布し、即日實施せり。(尙次記○印の品目に對しては1月25日日本邦品に對し割當量を附與せられたり)

稅番	品名	稅番	品名
64	小麦	520B	牽引車
70A	小麦粉	565	の内滑石
273B	加工絹製品	649	ベンゾ(粗製のもの、純粹のもの及精製したもの)
281E	モリブデン鐵	ABC	の内の内
281G	チタン鐵	658	柑橋より製したる
281H	タングステン鐵	A1	香精
281I	バナジウム鐵	658A5	明記せざる香精
437	溫暖用及冷却用器、蒸溜器、蒸濃器(蛇管のもの)	661	合製香水
97.3	真空管(整流用管を含む)	775	樟腦

(東京清昭和 10年1月30日在伊杉村大使來電)

コロンボ各種金屬製品輸入狀況 (外務省通商局日報 No. 22)

Cargills Ltd.	Fort, Colombo	(英商)
Miller & Co.,	" "	(同)
Lanka Hardware Stores	Third Cross Street,	(土人)
Chett nad Corporation Ltd.	Keyzer Street,	(同)

當地方では商習慣上信用狀を發行する者極はめて少く、本邦との取引は大體 D/P 30 日を普通とす、若し代理店の手を煩はす時は、大體手数料3%乃至5%を賣主より徴收し居れり、尙輸入品には總て原産國名を標記することになり居り、之に違反するものは總て沒收せらる。

次に 1934年 11箇月間の輸入品別國別累計は次の通り。

品名	英國	和蘭	日本	其他	計
Wire Nails	26,276	5,064	77,583	168	33,129
英	2,358				
獨	14,798				
佛	7,514				
須	8,641				
抹	47,435				
逸					
計					222,966
Wire Staples	517	11,192	2,895		18,433
英	3,590				
獨	239				
佛					
計					18,433
Other Manufactures of Wire	15,832	2,069	1,045	46	
英	264				
獨	486				
佛	1,947				
獨	376				
計					22,065
Rivets and Washers	14,979	377	48		17,885
英	568				
獨	1,761				
佛	152				
計					17,885
Bolts and Nuts	61,427	5,583	3,624	2,296	88,387
英	1,164				
獨	3,999				
佛	9,063				
獨	1,231				
計					88,387

Brass Nails and Screws					
英國	24,524	獨逸	323		
印度	124	和蘭	648		
暹國	1,134	日本	25,600		
白國	212	計	52,625		
Brass Manufactures					
英國	129,761	佛國	2,069		
濠洲	145	獨逸	39,270		
印度	344,283	和蘭	1,913		
緬甸	64	印度(非英領)	650		
香港	116	伊國	1,565		
海峽殖民地	57	日本	25,852		
暹國	3,762	瑞典	3,200		
白國	243	瑞典	1,636		
支那	927	米國	42		
致須國	108				
埃及	19	計	555,709		

(以上在コロombo、乙津領事報告)

**佛印アルミニウム並同製品輸出入狀況等** (外務省通商局日報 No. 16) アルミニウム地金、同加工製品の國別輸入量額次の通り。  
(印度支那外國貿易表に依る)

	數量(單位 100 kg)			價格(單位 1,000 法)		
	1931年	1932年	1933年	1931年	1932年	1933年
地金(塊棒板狀)	355	174	274	617	199	339
佛國	—	151	270	—	184	331
同殖民地	338	—	—	581	—	—
獨逸	14	1	1	24	1	3
英國	2	—	1	7	—	2
瑞典	—	5	—	—	8	—
支那	—	2	—	—	2	—
香港	0.5	—	—	2	1	—
暹羅	—	16	—	—	1	—
米國	0.5	—	—	2	—	—
加工製品	283	530	345	788	867	747
佛國	248	511	304	653	816	683
同殖民地	—	—	0.01	—	—	0.05
獨逸	22	8	19	73	15	34
英國	3	1	—	27	6	5
瑞典	2	—	—	4	—	—
瑞典	2	—	—	8	1	1
支那	—	—	—	—	1	—
香港	1	1	—	7	3	2
蘭領印度	—	—	—	—	—	1
日本	—	—	—	—	1	1
暹羅	2	5	18	4	12	16
新嘉坡	—	1	—	—	3	—
米國	2	1	—	11	4	1

輸入關稅(品名別)は後出別次の通り。

印度支那にはアルミニウムの産出なき爲、加工業者もなく、第一項に表示したる輸入地金の如きも、其過半は香港に向け再輸出せら

れたるものなり。今之を印度支那外國貿易表に依りて見るに次表の通りなり。

アルミニウム地金(塊、棒、板狀)屑金輸出額

	數量(100 kg)			價格(1,000 法)		
	1931年	1932年	1933年	1931年	1932年	1933年
總計	175	152	192	54	35	37
佛國	9	—	—	9	—	—
香港	166	151	192	45	33	37
雲南	—	1	—	—	2	—

**ポートランド鋳力裁斷屑狀況** 當地方には鋳力板製造工場無く、製罐工場も次の American Can Company の一分工場あるに過ぎず。

American Can Company, 2127 N. W. 20th Ave., Portland, Oregon. U. S. A. 同社は所要鋳力板を McKeesport Tin-plate Company, KcKeesport, Pennsylvania. より購入、製罐の上地方の需要に應じ居れり。

同社は在加州 Goldsmith De-tinning Co., と特約し、産出鋳力屑を隨時引渡し居るが、其適確なる年産量は之を知るに能はず。

以上 Goldsmith De-tinning Company は、大規模に鋳力屑より錫と鐵とを分解し居る由なり。

當地には電解製錫工場乃至剥錫工場なし。

當港より外國に向け鋳力屑輸出せられ居らず。

(以上在ポートランド、中村領事報告)

**コロombo鋳力裁斷屑狀況** (外務省通商日報 25 號)

東郷商會(Togo Co., Keyzer Street Colombo)

(註) 同商會は大阪市西區新町通 1 丁目 11 番地に支店を有す。

因に本商品は、稅關報告の Scrap Iron 中に含まれ居り、從て Tin Clipping としての的確なる數字を擧げ得ざるも、Scrap Iron の本邦向輸出額は、1934 年 11 月迄の累計 38,215 留比(總輸出額 93,428 留比)なり。  
(以上在コロombo、乙津領事報告)

**土國鋳力裁斷屑狀況** (外務省通商日報 No. 13)

鋳力關係諸工場 土國には製罐工場並鋳力製造工場存在せず、又電解製錫及同剥錫工場も亦存せず。

鋳力屑の輸出數量其仕向地及價格 土國に於ける鋳力屑の數量は判然せざるも、凡そ 400 噸乃至 500 噸(毎年)見當なるべく、從來専ら獨逸に輸出せられおたりたる所、1934 年 11 月横濱某外商の註文により、見本として約 22 噸の輸出ありたり。

内地買付値段は、1 噸に付土貨 7 乃至 10 磅にして、F.O.B 1 噸に付同じく 10 乃至 13 磅となる。

日本迄の運賃は、目下約 35 志見當(坡西土積換)なるも、輸出數量まともり 100 噸内外に達すれば、1 噸 25 志内外にて直航の船腹を得んこと可能なるべしとのことなり。

(以上在土、本商務書記官報告)



主要製鐵所に於ける11月分鐵鋼材生産高調 (商工省鐵山局) (單位噸)

種別	11月分			累計			
	昭和9年	昭和8年	増減	昭和9年	昭和8年	増減	%
銑鐵	166,211	152,941	13,270	1,756,500	1,437,741	318,759	22
普	41,061	36,910	4,151	422,231	394,111	28,120	7
販賣	347,803	290,631	57,173	3,382,502	2,796,841	585,661	20
賣	9,742	7,470	2,272	81,095	86,253	- 5,158	- 5
賣	18,377	11,761	6,616	135,900	105,948	29,952	28
鍛	5,792	5,381	411	57,647	52,167	5,480	10
普	280,201	222,523	57,678	2,791,122	2,233,855	557,257	24
普通壓延鋼材内譯							
0.7mm.以下鋼板	25,500	23,456	2,044	266,924	277,068	- 10,144	- 3
其他鋼板	56,864	41,652	15,212	573,181	433,019	140,162	32
力	6,885	-	-	55,717	-	-	-
鐵棒	69,835	60,887	8,948	677,665	584,251	93,414	16
形軌	44,138	25,193	18,945	404,059	306,332	97,727	31
線	32,869	29,407	3,462	336,042	243,224	92,818	38
鋼	26,832	29,032	- 2,200	317,288	253,527	63,761	25
鋼	13,423	8,876	4,547	123,416	105,069	18,347	17
其	3,855	4,020	- 165	36,830	31,375	5,455	17

備考 - 印は生産減を示す

昭和9年外國銑輸入高表 (單位噸) (銑鐵共同販賣會社)

月次	輸出國名					其他	計
	印度	英國	獨逸	米國	瑞典		
1	10,736	102	-	-	-	-	10,838
2	13,563	274	-	-	32	-	13,869
3	11,304	71	-	-	-	306	11,681
4	8,399	31	-	414	16	-	8,860
5	15,806	152	152	-	-	-	16,110
6	12,826	-	-	-	203	-	13,029
7	11,124	81	-	255	-	7	11,467
8	25,988	-	-	-	-	-	25,988
9	19,721	407	-	-	-	-	20,128
10	24,070	101	-	104	-	-	24,275
11	26,685	-	-	-	5	-	26,690
12	21,932	102	-	-	-	2	22,036
計	202,154	1,321	152	773	256	315	204,971

昭和9年11月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品名	生産額	9月中	前月中	前年同月	1月以降累計	
					昭和9年	昭和8年
金	(gr)	1,224,061	1,277,736	1,197,708	13,386,171	12,349,690
銀	(gr)	18,345,168	18,047,846	15,356,037	194,919,983	167,659,033
銅	(kg)	5,326,947	6,007,211	5,675,533	61,877,966	63,494,532
鉛	(kg)	582,710	565,178	606,632	6,229,914	6,194,629
亞鉛	(kg)	2,662,161	2,515,146	2,593,466	27,056,772	26,448,107
錫	(kg)	130,571	127,340	74,995	1,045,570	853,233
硫	(t)	11,696	12,046	9,661	116,246	98,560
鐵	(t)	89,902	88,727	75,877	961,514	809,739
鐵	(t)	437,115	441,266	429,544	4,428,393	4,382,447
鐵	(t)	74,500	73,735	57,795	729,993	656,551
石	(t)	2,827,206	2,797,512	2,829,153	30,113,882	27,073,467
石油(原油)	(100l)	206,346	212,846	176,127	2,110,497	2,002,812

內外最近刊誌參考記事目次

**The Metal Industry (London), Oct. 5, 1934.**

- Some note on phosphor-bronze. R. C. Stockton. p. 315-317.
- Metal work at the building exhibition. p. 319-320.
- Birmingham metallurgical society. p. 321-324.
- Some further principles of electrochemistry applied in electrodeposition, No. III. S. Field. p. 325-326.
- Bus-bars for electrochemical plants. L. C. Paw. p. 327-329.

**The Metal Industry (London), Oct. 12, 1934.**

- Further improvements in Seamless tube manufacture. G. Evans. p. 339-341.
- Testing the film strength of tubricants. p. 341-342.
- The effect of some mill variables on the gauge of sheet brass. C. K. Skinner. p. 343-344.
- Institute of metals discussion on white bearing metals. p. 345-349.
- The German non-ferrous metal market in September. p. 350-351.

**The Metal Industry (London), Oct. 19, 1934.**

- Modern die casting machines. E. Stevan. p. 363-365.
- Scientific management in industrial undertakings. Friedrich Meyenberg. p. 365-368.
- The effect of some mill variables on the gauge of sheet brass. C. K. Skinner. p. 369-370.
- Warming the plating shop. p. 373-374.
- Cadmium plating. H. Marston. p. 374-376.

**Metal Industry (London), Oct. 26, 1934.**

- The property of permanent set in certain non-ferrous alloys. J. E. Hurst. p. 387-391.
- Preece test (copper-sulphate dip) for zinc coatings. E. C. Groesbeck and H. H. Walkup. p. 393-396.
- The French non-ferrous metal trades. p. 397-398.

**The Metal Industry (London), Nov. 2, 1934.**

- Midland metallurgical societies. p. 411-412.
- Scientific management in industrial undertakings. F. Meyenberg. p. 413-417.
- Anomalies observed in the rate of corrosion of zinc. J. E. Maconachie. p. 418-420.
- New American sheet lead mill. p. 421-422.
- Practical plating deposition of copper II. E. A. Ollard and J. W. Perring. p. 423-424.
- Cadmium plating. H. Marston. p. 425-426.

**The Metal Industry (London), Nov. 9, 1934.**

- The essentials of illumination in a metal foundry. C. Sylvester. p. 437-439.
- Preece test (copper sulphate dip) for zinc coatings. E. C. Groesbeck and H. H. Walkup. p. 440-442.
- Midland metallurgical societies. p. 444-445.
- Machine tool and engineering exhibition. p. 446-449.

**Metal Industry (London), Nov. 16, 1934.**

- Malpractice in metal Casting. p. 461-462.
- Electrodepositors' technical society. p. 463-465.
- Alloys of nickel and barium. D. W. Randolph. p. 467-468.
- New universal testing machine. p. 469-470.
- The deposition of zinc cadmium alloys from alkaline cyanide solutions. L. Wright and J. Riley.
- Some further principles of electrochemistry applied to electrodeposition, No. IV. S. Field. p. 473-475.

**Zeitschrift für Metallkunde, Okt. 1934.**

- Zum Mechanismus der Elektrizitätsleitung. R. W. Pohl. s. 217-224.
- Untersuchungen an Modellstoffen zur Metallmechanik. A. Smekal. s. 220-224.
- Voraussetzungen für die Zusammenarbeit von Wissenschaft und Praxis im Betrieb. M. Rhaydt. s. 225-226.
- Das Wesen der metallischen Mischkristalle und Verbindungen. U. Dehlinger. s. 227-230.
- Kompressionen der metalle bei der Bildung intermetallischer verbindungen. W. Biltz. s. 230-232.
- Versuch zur direkten Ermittlung der freien Weglänge der Elektronen in Metallen. A. Eucken und F. Förster. s. 232-235.

**Zeitschrift für Metallkunde, Nov. 1934.**

- Ueber oxydische Beimengungen im Stahl. F. Körster. s. 241-244.
- Zur Kenntnis der Schwefel-Manganstähle. R. Vogel. s. 244-247.
- Ueber gleichgewichte zwischen Metallen und Schlacken

im flüssigen Zustand. W. Krings. s. 247-249.

Die Legierungen des Aluminiums mit dem Gallium. E. Jenckel. s. 249-281.

Die jüngste Entwicklung auf dem Gebiete der Edelmetall-Legierungen. O. Feussner. s. 251-253.

Dehnung bei grossen Messlängen. K. L. Meissner. W. Stenzel. s. 254-255.

Umwandlungen in Eutektoidlegierungen. G. Wassermann. s. 256-259.

Die Messung der Viskosität der Alkalimetalle im Vakuum. F. Sauerwald. s. 259-260.

Rundschaue über Rekrystallisation und Allotropie von Kalzium. A. Schulze. s. 260-261.

**Stahl und Eisen. 54. Jahrg. Heft. 48, 29. Nov. 1934.**

- Untersuchungen über die günstigste Form des Thomas-konverters (Schluss folgt). Thilo. Heyden. s. 1225.
- Die Reichsbahn im Zeichen des Fortschritts. W. Ahrens. s. 1230.

**Stahl und Eisen. 54. Jahrg. Heft. 49, 6. Dez. 1934.**

- Das Einblasen von Gichtstaub in Hochöfen nach dem Verfahren von Heskamp. Otto. Wehrheim. s. 1253.
- Untersuchungen über die günstigste Form des Thomas-konverters (Schluss). Thilo. Heyden. s. 1256.

**Stahl und Eisen. 54. Jahrg. Heft. 50, 13. Dez. 1934.**

- Gefüge und Festigkeitseigenschaften grosser schmiedestücke (Schluss folgt). Mauer Edward und Heinrich Gummert. s. 1281.
- Wachselbeanspruchung von Rohren unter Innendruck. Maier Albert F. S. 1298.

**Stahl und Eisen. 54. Jahrg. Heft. 51, 20. Dez. 1934.**

- Ein neues Hilfsmittel der Grosszahl-forschung. Beckel. August und Karl Daeves. s. 1305.
- Gefüge und Festigkeitseigenschaften grosser schmiedestücke (Schluss). Mauer Edward und Heinrich Gummert. s. 1309.

**Archiv für das Eisen hütten wesen. 8. Jahrg. Heft. 6, Dez. 1934.**

- Grundlagen, Entwicklung und Beispiele feuerungs-technischer Berechnungen. 1. Teil; Grundlagen und Aufbau der Formeln aus den Stoffbilanzen. Hellmuth Schwiedessen. s. 231.
- Ein Näherungswert für die Bildungs wärme eines Eisen-phosphides [Fe<sub>2</sub>P]. Walther A. Roth, Alfred Meichsner und Helmut Richter. s. 239.
- Beziehungen zwischen Röntgenbild und Festigkeitseigenschaften, ermittelt an Schweissverbindungen. Karl Wallmann. s. 243.
- Das System Eisen-Eisenoxyd-Kalziumorthoferrit. Erich Martin und Rudolf Vogel. s. 249.
- Die Karbide in stählen mit niedrigem Vanadingehalt. Wilhelm Bischof. s. 255.
- Vergleich von Brinell- und Ritzhärte. Erich Scheil und Willi Tonn. s. 259.
- Einfluss der im technischen Eisen enthaltenen Verunreinigungen auf die Kerbzähigkeit. Gerhard Schmidt. s. 263.
- Grundfragen der Selbstkosten- und Erfolgsrechnung. Heinrich Kreis. s. 269.

**Die Giesserei. 21. Jahrg. Heft. 49-50, 7. Dez. 1934.**

- Herstellung eines stahlgussläufers für eine Wasser turbine. C. Heiken VDI. s. 517.
- Schmelzen einer Kupfer-Nickel-Legierung. Gustav Schüle. s. 520.

**Die Giesserei. 21. Jahrg. Heft. 51-52, 21. Dez. 1934.**

- Festigkeitversuche an Gusseisen und deren Auswertung mittels der Mohrschen Theorie mit Hüllparabel. A. Leon. und A. Slattenschek.

**Blast furnace and Steel plant, Dec. 1934.**

- Chemistry of an open-hearth Heat. L. H. Nelson. p. 687.
- Reversing Drives for Blooming Mills. Part VI. Gordon Fox. p. 689.
- Estimating O. H. slag composition. Part II. I. N. Goff. p. 693.
- Checker increases stove Efficiency. A. Bowland. p. 695.
- Finishing the heat of steel. Part XXVII. J. H. Hruska. p. 699.
- Occurrence of Blisters in Tinplate. T. C. Grey-Davies. p. 702.
- High Temperature Insulation for Industrial furnace. N. Allen Humphrey. p. 703.
- Fracture test and Ingot Defect. J. H. Hruska. p. 705.
- Blast furnace slag as Insulating Material. W. Trinks. p. 707.